

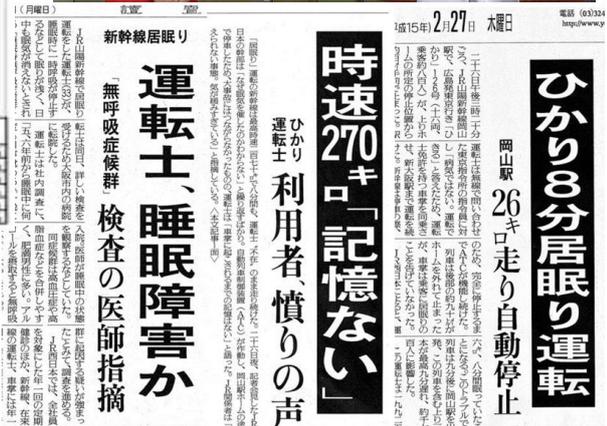


日比谷歯科新聞～57号

11月です～ 今年もあと2ヶ月！！ もう早すぎて困っています 笑
前回は主な症状や、合併症についてお話ししました。今月はこの睡眠時無呼吸症候群がもたらす社会的影響について皆さんに知ってほしいと思いお話ししていこうと思います。
まず、日本人における閉鎖性睡眠時無呼吸症候群 (OSA)有病率は、

- ・ 男性 = 23.7% **4人に1人**
 - ・ 女性 = 1.5% (閉経前)、9.5% (閉経後) **10人に1人**
- ※中等症以上の睡眠呼吸障害

こちらは居眠りによる事故の記事です。↓↓↓



睡眠時無呼吸症候群による日中の眠気のために交通事故や災害事故を起こす危険性が高くなります。
2003年2月26日に山陽新幹線の運転手が居眠り運転を起こす事例がありました。

その後の検査により運転手が睡眠時無呼吸症候群であることが判明し、ここで睡眠時無呼吸症候群 (OSAS)への注目が集まるようになりました。

また、生活の質 (QOL)を調査した結果、睡眠時無呼吸症候群患者さんのうち軽症から中等症では『活力』が障害されており、重症ではさらに広い項目のQOLが障害されること、また本人のみならずベツトパートナーのQOLも障害されることが報告されています。

適切な治療により改善されます。

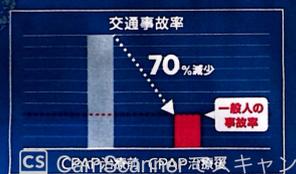
「そういえば、イビキがうるさいって言われるな～」
「朝起きると寝たのに身体が重いんだよな～」

大した事ないよ～なんて思わずまずは、日比谷歯科医院で医師による問診を是非受けてみてください！
軽度～中程度の場合は医院での治療が可能です。
簡易検査により重度と診断が出た場合は近隣の耳鼻咽喉科をご紹介します。 Oでした～👏

OSAS患者さんでは、交通事故は一般ドライバーの**2.4倍と多く**、



CPAP治療の前後を比較すると



CPAPにより**約70%減少**し、また、一般人の事故率と同じになります²⁾。